

エコアクション21
2023 年度環境活動レポート
(対象期間:2023 年 6 月 1 日～2024 年 5 月 31 日)



株式会社 R エンジニアリング



作成日:2024 年 11 月 9 日

環境方針

■基本理念

株式会社Rエンジニアリングは、『未来の子供たちに美しい地球を』を合い言葉に、自らの事業活動における負荷を認識することから始め、循環型社会の形成に貢献できる会社として、すべての事業活動において環境に配慮しながら資源の有効利用を図り、地域社会に貢献します。

■基本方針

1. 電力及び化石燃料の使用削減に努め、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2. 節水に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの継続的改善を行い、事業活動で発生する環境負荷を可能な限り低減し環境汚染の未然防止に努めます。
4. 排出先への環境情報の提供、また廃棄物の削減に関する助言等の支援を行います。
5. 環境保全関係法令を遵守します。
6. 本方針を全従業員に周知徹底させ、かつ環境に関する教育及び啓蒙活動を実施して環境方針に関する意識の向上を図ります。
7. 当社は経営における課題とチャンスを踏まえ、環境方針を見直します。
8. CSR 活動に努め、地域活動に貢献します。
 - ・事業所周辺の美化活動
 - ・U 字溝清掃
 - ・地下水の節約
 - ・搬出事業者への分別徹底の周知活動

2021 年 6 月 1 日



株式会社 R エンジニアリング
代表取締役 杉山 心道

組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 R エンジニアリング

代表取締役 杉山 心道

(2) 設立年月日

2011 年 2 月 2 日

(3) 所在地

本社： 栃木県那須塩原市四区町 728-156

横浜営業所： 神奈川県横浜市西区岡野 2-8-7 メゾンTMJ101

RC プラント： 栃木県那須塩原市墓沼 609-2

(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者： 月井美紀子

連絡先： 0287-74-6555

(5) 事業内容

産業廃棄物収集・運搬・処分業

再生碎石・再生砂利・再生砂・瓦チップの販売

建物、構造物の解体業

(6) 事業年度

6 月～5 月

(7) 事業の規模

資本金： 1000 万円

売上： 58450 万円

従業員： 24 名

延べ床面積： 本社 163.15 m²

横浜営業所 24.87 m²

RCプラント 66.24 m²

(8) 許認可

産業廃棄物収集運搬業	9 自治体※別表 1 参照
産業廃棄物処分業	1 自治体※別表 1 参照

産業廃棄物収集運搬業許可一覧表																						
NO.	都道府 県名	許可番号	許可年月日 許可期限	燃え 殻	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	廃 プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	動物のふん尿	動物の死体	13号廃棄物
1	福島県	00707159906	R3.8.4	●						▲	●	●	●		●	●	▲	●	▲			
			R8.7.20																			
2	茨城県	00801159906	R4.1.26	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.9.13																			
3	栃木県	00900159906	R3.6.10	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.6.9																			
4	群馬県	01000159906	R3.5.24	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.5.23																			
5	埼玉県	01100159906	R3.6.28	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.5.30																			
6	千葉県	01200159906	R3.6.16	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.6.15																			
7	東京都	13-00-159906	R3.8.8	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.8.7																			
8	神奈川 県	01403159906	R3.5.31	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲	●		
			R8.5.30																			
9	静岡県	02201159906	R4.4.6							▲	●	●	●	●	●	●	▲		▲			
			R9.4.5																			
※ ▲石綿含有産業廃棄物を含む																						
産業廃棄物処分業許可一覧表																						
NO.	都道府 県名	許可番号	許可年月日 許可期限	燃え 殻	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	廃 プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい	がれき類	ばいじん	動物のふん尿	動物の死体	13号廃棄物
1	栃木県	00920159906	R2.4.30														●		●			
			R7.4.29																			

(別表 1)

【運搬車両】

ダンプ	2台
トラクタ	0台
トレーラ	0台
パキューム	1台

【重機】

油圧ショベル	8台
ローダー	6台

【処理施設の種類・破碎施設】

グリズリーフィーダー、ジョークラッシャー、インパクトクラッシャーからなる、がれき類の破碎施設

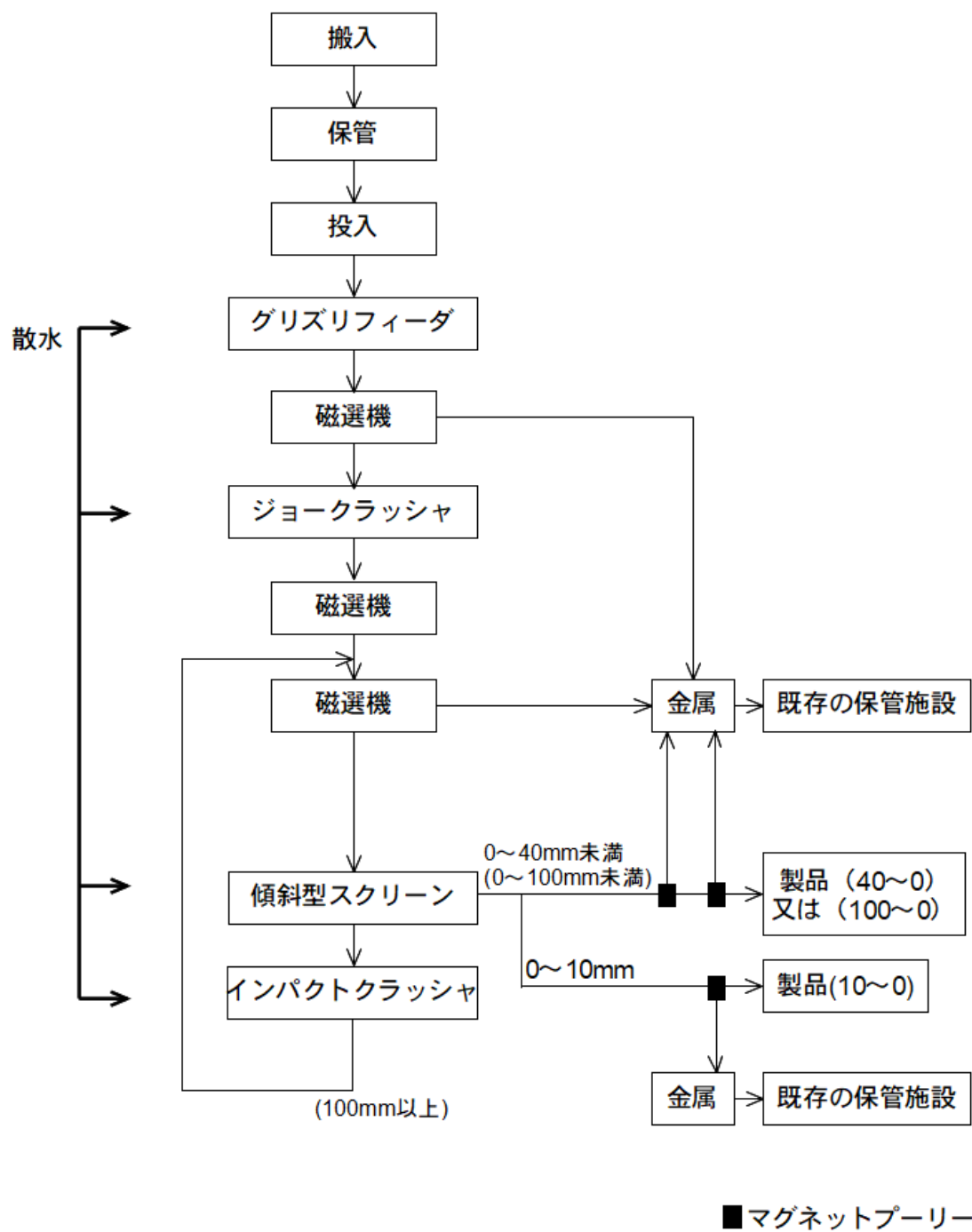
【処理する産業廃棄物の種類】

- ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃コンクリート、廃アスファルトコンクリート、廃瓦で、破碎することにより再生利用できるものに限る。）
- ・がれき類（廃コンクリート、廃アスファルトコンクリート、廃石材で、破碎することにより再生利用できるものに限る。）



【処理能力】 2888.00t／日

【RC プラント 処理フロー図】



2016 年 6 月 1 日現在

【処理方法】破碎

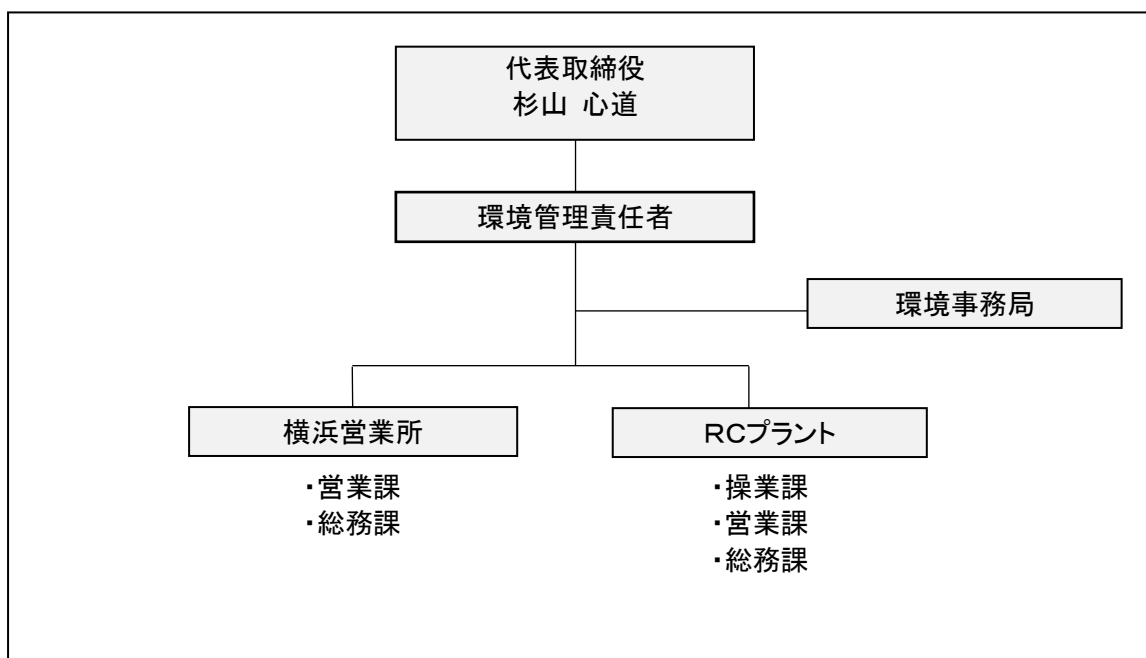
【廃棄物受入実績】

2014 年 6 月～2015 年 5 月	61t
2015 年 6 月～2016 年 5 月	68,827t
2016 年 6 月～2017 年 5 月	87,854t
2017 年 6 月～2018 年 5 月	66,358t
2018 年 6 月～2019 年 5 月	80,722t
2019 年 6 月～2020 年 5 月	99,773t
2020 年 6 月～2021 年 5 月	90,163t
2021 年 6 月～2022 年 5 月	82,924t
2022 年 6 月～2023 年 5 月	81,828t
2023 年 6 月～2024 年 5 月	90,439t

【収集運搬実績】

2014 年 6 月～2015 年 5 月	20,250t
2015 年 6 月～2016 年 5 月	40,624t
2016 年 6 月～2017 年 5 月	52,687t
2017 年 6 月～2018 年 5 月	36,656t
2018 年 6 月～2019 年 5 月	47,891t
2019 年 6 月～2020 年 5 月	45,280t
2020 年 6 月～2021 年 5 月	6,887t
2021 年 6 月～2022 年 5 月	0t
2022 年 6 月～2023 年 5 月	48t
2023 年 6 月～2024 年 5 月	48t

組織図



■認証・登録の対象組織・活動

対象事業所： 株式会社Rエンジニアリング
・本社
・RCプラント
・横浜営業所

事業活動： 産業廃棄物収集・運搬・処分業
再生碎石・再生砂利・再生砂・瓦チップの販売

■教育・訓練の実施

2023 年 2 月～月に 1 回リーダー安全衛生会議を行う。

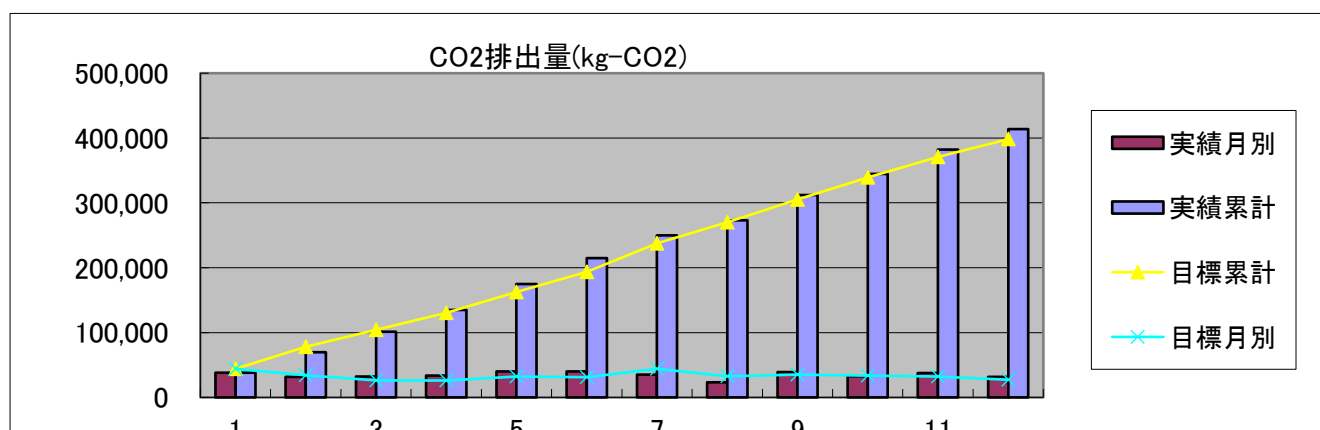
※安全衛生会議に伴い、各課で危険予知訓練の実施及びヒヤリハットの報告を行う。

2023 年 10 月 配車(Rライン含む)の担当者が運行管理者試験合格。

■環境目標と達成状況

年度 項目		2022 年	2023 年			2024 年	2025 年
		基準年度	目 標	実 績	評 価	目 標 基準年度 2022 比	目 標 基準年度 2022 比
電力の CO2 総排出量削減	kg-CO2 基準年度	67,531	99% 66,856	64,607	○	99% 66,856	99% 66,856
自動車燃料等 の CO2 総排出 量削減	kg-CO2 基準年度	334,553	99% 331,207	348,986	×	99% 331,207	99% 331,207
上記 CO2 排出量合計 kg-CO2		402,084	389,063	413,593	×	389,063	389,063
一般廃棄物の 削減	kg 基準年度	800	99% 792	400	○	99% 792	99% 792
節 水	m ³ 基準年度	212	99% 210	242	×	99% 210	99% 210
CSR 活動によ る地域活動		2回／年	2回／年	2回／年	○	2回／年	2回／年

※購入電力の排出係数 0.411kg-CO2/kwh(東京電力の調整排出係数を使用)



■環境計画

- ・二酸化炭素の排出抑制(電力、ガソリン、軽油使用量の削減)
- ・空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃)
- ・空調の保守点検、必要な区域、時間に設定
- ・施設の適正管理、定期メンテナンス・予備部品の管理、調達・インバーターの適正な調整
- ・照明の適正化、昼明の利用、スイッチの適正管理
- ・休憩時間の施設電源の停止
- ・アイドリングストップ
- ・車輛から離れるときのエンジン停止
- ・急発進、急加速の禁止
- ・一般廃棄物の削減、減容化の徹底
- ・事前選別の徹底
- ・節水
- ・事業所周辺道路の路面清掃およびU字溝清掃

■環境活動の取組み結果の評価

CO2 排出量については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により減少していた受入量が元に戻りつつあるため、車両及び重機ともに使用頻度が増え、それに伴い CO2 排出量も増えてきていると思われます。燃費効率を考えた運行、重機での作業を周知出来るようにいたします。

また、節水も近年の猛暑に加え梅雨期間も短く粉じん対策のための散水作業が増えてきています。公害防止を考慮しながら節水も並行できるよう努めてまいります。

■次年度以降の取組み

- ・二酸化炭素の排出抑制(電力、ガソリン、軽油使用量の削減)
- ・空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃)
- ・空調の保守点検、必要な区域、時間に設定
- ・施設の適正管理、定期メンテナンス・予備部品の管理、調達・インバーターの適正な調整
- ・照明の適正化、昼明の利用、スイッチの適正管理
- ・休憩時間の施設電源の停止
- ・アイドリングストップ
- ・車輛から離れるときのエンジン停止
- ・急発進、急加速の禁止
- ・一般廃棄物の削減、減容化の徹底
- ・事前選別の徹底
- ・節水
- ・事業所周辺道路の路面清掃および U 字溝清掃
- ・プラントで使用する重機ごと(かきあげ、積込み、投入、小割、清掃など)、また製品運搬車輛ごとの整備記録、燃費管理の徹底

■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりです。

また、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	運搬基準(車両への表示明示、許可書等の備え付け) 処理基準、監視・測定(許可書、マニフェスト、帳簿) 届出・報告(実績報告書、管理票交付等報告書)
栃木県生活環境保全条例	アイドリングストップ
大気汚染防止法	一般粉じん発生施設の届出
騒音規制法	特定施設の届出、地域別騒音基準の順守
振動規制法	特定施設の届出、地域別騒音基準の順守
9都県市条例	対象車両に減少装置の設置
浄化槽法	11 条検査 1 回／年、清掃 1 回／年、点検 3 回／年

■代表者による全体の評価と見直し・指示

見直しに必要な情報				代表者による見直し	
管理責任者の報告及び改善への提案				変更の必要性の有無・指示事項	
[取り組み状況の評価結果]				[環境方針]	
①問題点の是正処置及び予防処置の状況				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
2023年度は上期、下期において問題点の是正を行った					
②前回までの代表者の指示事項への対応					
CO2排出量については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により減少していた受入量が元に戻りつつあるため、車両及び重機ともに使用頻度が増え、それに伴いCO2排出量も増えてきていると思われます。燃費効率を考えた運行、重機での作業を周知出来るようにいたします。					
また、節水も近年の猛暑に加え梅雨期間も短く粉じん対策のための散水作業が増えてきています。公害防止を考慮しながら節水も並行できるよう努めてまいります。					
[目標・環境活動計画の達成状況]				[目標・活動計画]	
(詳細は環境活動計画書による)				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント (目標値と活動計画に 対するコメント)		
二酸化炭素排出量	×	○	環境レポート参照	変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
廃棄物の削減	○	○	〃		
水使用量の現状維持	×	○	〃		
地下水使用量の管理	○	○	〃		
RCプラントにおける地下水使用量を2021年度より把握を開始。2022年度からは、21年度実績からの削減を目標とする				[実施体制]	
				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
[周囲の変化の状況]				[その他]	
特になし。				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
②環境関連法規制等の動向他					
適宜動向を見定める必要がある。					
[総括] (環境活動レポートの代表者による全体の評価と見直しの欄に記載)					
目標値は毎年削減するばかりではなく、維持することがこれからの適正な目標であるとも思います。 一歩一歩確実により一層の努力を重ねてください。					

■CSR 活動による地域活動

◇道路修繕①



製品運搬に走行している市道の穴を補修いたしました

◇草刈り

